

基本目標① 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～											令和4年度 具体的な取り組み実績 実施結果の分析と今後の取り組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価	
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取り組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5					
【1】地域の課題を把握する体制づくり	(1)身近に相談できる体制づくり	45	市 社協	<p>〔市〕 高齢者や障がい者等に関する相談に包括的に対応できる相談体制の検討</p> <p>〔社協〕 社会福祉協議会の地区担当職員による活動支援。 ・ふれあいいきいきサロン、見守り活動等のバックアップなどを行う。 ・地域住民が身近に相談できる体制づくりの推進。</p>	<p>【参考】 サロンや見守り活動等への支援活動回数</p>	実績値	334回	192回	284回	352回	<p>【具体的な取り組みと実績】</p> <p>〔市〕 地域住民が抱える複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の整備(重層的支援体制整備)に向け、令和4年度は市保健福祉部内に設置した地域連携準備室を中心に、保健福祉部及び子ども未来部の関係課によるプロジェクトチームにより検討を進めた。</p> <p>〔社協〕 ○職員が福推協及び民児協の定例会等へ出席し、社協の事業説明や相談支援に関する助言を行った。各サロンには、新型コロナウイルス感染症予防関連の情報や見守り支援活動、相談窓口に関する情報提供を行った。</p> <p>○サロン訪問時に受けた相談を必要に応じて各関係機関へ繋いだ。 →介護保険サービスに関する相談、コロナ禍のサロン運営に関する相談、災害時の対応に関する相談、日常生活上のちょっとした困りごとに関する相談等</p> <p>【実施結果の分析と今後の取り組み方針】</p> <p>〔市〕 令和5年度から重層的支援体制整備事業を構成する事業のうち、既存体制を活かしつつ一部の事業から段階的に開始することを庁内で決定した。令和7年度からの全面実施を目指し、今後は庁内外関係者も含め、既存事業(相談支援事業、多機関協働事業、地域づくり事業)の評価や未着手事業(参加支援事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業)の整備を図ることとしている。</p> <p>〔社協〕 ○感染予防対策の情報提供など、コロナ禍におけるサロン活動の運営支援を継続的に行ったこと、またサロンの新設も行ってきたことで、身近に相談できる体制として、まずは「参加者同士が気軽に相談し合う場」が整った。</p> <p>○市内の感染状況が落ち着いてきたこともあり、コロナ禍で減少していた職員による訪問回数はコロナ禍ピーク時より回復し、相談等の対応も行ってきた。しかし、相談体制としてどこまで機能しているか検証が不十分であるため、今後相談件数や内容等を整理し体制を検証する。</p> <p>○今後も引き続き、福推協及び民児協等の定例会やサロンの訪問を通じて、社協事業等の説明を行い、身近な相談機関としてPRしていくとともに各関係機関との連携を密に取りながら、地域住民が身近に相談できる場所としての役割を担っていく。</p>	3	<p>サロンで受理した相談件数や内容を明らかにし、相談体制として機能しているかを検証していただきたい。</p>	3	

基本目標①		地域課題の把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～										令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価											
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5																
【1】地域の課題を把握する体制づくり	(2)民生委員・児童委員の活動支援	46	市 社協	<p>[市] ①民生委員児童委員活動費補助事業・福祉活動を支えるため、情報提供や補助等、積極的な支援を行う。</p> <p>②連絡調整会議及び各種研修会の開催</p> <p>[社協] ①地区定例会等への参加(事業の周知、説明) ・定例会等への参加を通じて、事業の周知や説明を行う。 ②相談対応のバックアップ ・困難ケースをはじめとした相談対応のバックアップを行う。</p>	連絡調整会議開催回数	目標値	年12回	年12回	年12回	年12回	年12回	<p>【具体的な取組みと実績】</p> <p>[市] ○「民生委員児童委員協議会会長会」は、通常毎月1回開催し、33地区の会長、主任児童委員部会長、社会福祉協議会、市関係部局での意見交換や情報提供を行っているが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一部中止し、年11回行った。また、地区活動費や個人活動費等の支援を行った。</p> <p>○「民生委員・児童委員 新任研修」期日:令和4年12月19日(月) 出席者:172名 「民生委員・児童委員 会長研修」期日:令和5年1月30日(月) 出席者:25名 「民生委員・児童委員 全体研修」期日:令和5年3月13日(月) 出席者:464名</p> <p>○令和4年12月の一斉改選に伴い、定数628名に対し598名を委嘱。 佐世保市の委嘱率(95.2%)は、全国(93.7%)、中核市(94.4%)、長崎県(94.5%)の平均を上回った。</p> <p>○民生委員・児童委員に関する市民の理解を深めるため、市ホームページや広報させほ5月号に民生委員・児童委員活動の役割を掲載し、また市役所庁舎に「5月12日は民生委員・児童委員の日」の懸垂幕を掲示するなどして、周知、広報に努めた。</p> <p>[社協] ○民児協会長会や地区民児協定例会に出席し、事業の周知を行った。特に委員の一斉改選に伴い、社協の役割や事業の内容に関して説明・周知を行った。また、個別に相談があった際には、その対応や利用できるサービス等についての情報提供を行った。 ・地区担当職員による各地区定例会への参加回数(103回) ・貸付事業など、事業担当者と共にアドバイスなどバックアップを行った。また、経済的困窮に関する相談を生活困窮者自立相談支援事業担当者へつないだ(9件)。その他、介護に関する相談等、関係機関と協力しながら適宜対応している。</p> <p>【実施結果の分析と今後の取組み方針】</p> <p>[市] ○会長会の開催や活動費等の補助を行うことで、民生委員・児童委員の業務が円滑に行われ、地域住民の福祉ニーズに対応でき、健康で安心して暮らせる町の実現に貢献した。 →今後も引き続き情報提供や補助等、積極的な支援を行い、良好な連絡提携と協力関係を保持することで、福祉の推進を図る。</p> <p>○3年毎に民生委員の一斉改選があるが、全国的にもなり手不足が問題化しており、市に推薦する各町内会関係者が改選の度に苦慮している状況である。町内会においては、候補者の職場の定年延長による就業拡大や地域コミュニティの希薄化で人選が難しく、令和4年度末現在28名の欠員が生じている。 →地域福祉のより一層の推進のため、今後も引き続き民生委員・児童委員の活動を支援していき、欠員地区に 対しては説明及び依頼を重ね、随時補充を行う。</p> <p>○民生委員・児童委員のPR活動を行い、地域住民をはじめ、関係機関・団体等に対して、委員の存在やその活動について、一層の理解促進を図り、委員活動の充実につながることを目指した。 →民生委員・児童委員制度の理解を深めるため、引き続き市ホームページや広報誌等で周知を図る。</p> <p>[社協] ○貸付事業の内容など、民生委員・児童委員と特に関係のある事業の周知が継続的に出来ている。 →引き続き、各地区の民生委員・児童委員に対する制度の周知を図り対象者への支援につなげる。</p>	実績値	年12回	年7回 ※一部 中止	年8回 ※一部 中止	年11 回 ※一部 中止	達成度	100%	58%	67%	92%	3	民生委員・児童委員の欠員が生じていることから、町内会関係者への働きかけや広報を強化し、欠員補充に努めていただきたい。	3	
					各種研修開催回数	目標値	年3回	年2回	年2回	年3回	年2回		実績値	2回	感染 予防 のため 中止	1回 ※一部 中止	3回	達成度	67%	0%	50%	100%				
					民生委員・児童委員一斉改選	目標値	一斉改選	—	定数調査	一斉改選	—		実績値	一斉改選	—	定数調査	一斉改選	—	達成度	100%	—	100%				100%
					目標・指標 事業達成度(達成度平均)		97%																			

基本目標① 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～											令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価	
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5					
【2】課題を解決するための体制づくりと活動の促進	(1)地域福祉を推進する組織の基盤強化と活動支援	48	市 社協	<p>【市】</p> <p>①地区福祉推進協議会と地区自治協議会の再編・合流 ・再編・合流を推進するとともに、社会福祉協議会と共同して地域福祉を進めていく。</p> <p>②地域づくりを推進しやすい活動拠点への移行(地区公民館のコミュニティ施設化等) ・地域コミュニティの活動拠点として地区公民館のコミュニティ施設化を目指す。</p> <p>【社協】</p> <p>①地区担当職員による実践活動の連携・支援 ・再編・合流をはじめ、地域を基盤とした地域福祉活動の支援に取組む。</p> <p>②福祉関係部会の代表による連絡会の設置・会議の開催、事務局としての活動推進 ・再編・合流後も、自治協福祉関係部会等の代表による連絡会を開催していく。</p> <p>③福祉関係部会の構成員を対象とした研修会の開催 ・構成員を対象とした研修会をブロック別に開催していく。</p>	【参考】 地区自治協議会との再編・合流実施地区数(累計)	実績値	1地区	1地区 (2地区)	1地区 (3地区)	1地区 (4地区)		<p>【具体的な取組みと実績】</p> <p>【市】</p> <p>○再編合流については、令和3年度から地域運営研究会において、「再編合流の効果＝『有効マネジメント』の効果を得られる限り、統合の形式にはこだわらない。」ことを確認しており、今後、それぞれの地区で連結等の方法を判断しながら、より地域運営が効果的にできる体制を作っていく。</p> <p>○再編合流の形式にこだわらないとしながらも、令和4年度には1地区が合流した。</p> <p>【社協】</p> <p>①地区担当職員による実践活動の連携・支援 ・各地区福推協等の活動支援を行った。 (活動企画・提案、連絡調整、定例会の参加、広報誌発行、情報提供、ニーズ把握など) ・令和4年4月、宮地区福祉推進協議会が、地区自治協議会保健福祉部会に合流 ※令和5年3月末現在、鹿町、吉井、柚木、宮地区が合流済み ・その他、各地区福推協等の活動支援の一環として、その運営及び活動に係る費用の一部を助成</p> <p>②福推協及び自治協福祉関係部会会長連絡会の開催等 ■第1回 開催日:令和4年7月 ※新型コロナウイルス感染予防のため、資料送付により実施 内 容:令和4年度会長連絡会事業報告、災害時に備えてできること・支え合いについて 福推協等構成員研修会について、自治協議会との再編・合流について 他 ■第2回 開催日:令和4年10月28日(金) 内 容:防災ゲーム(クロスロード)、新型コロナウイルス感染拡大による地域活動の変化 ふくし教育の推進について、地域の見守り活動について 他 ■第3回 開催日:令和5年3月23日(木) 内 容:会長連絡会の役割と活動内容について、佐世保市ボランティアセンターについて ふれあいいきいきサロンについて(情報交換)、成年後見制度について 他</p> <p>③福推協等構成員を対象とした研修会の開催 開催日:令和5年3月7日(火) 場 所:アルカス佐世保、広田地区・小佐々地区・黒島地区コミュニティセンター、社協宇久支所 ※アルカス佐世保からライブ配信 内 容:①基調説明「地区福祉推進協議会及び地区自治協議会福祉関係部会 について」 説 明 者 佐世保市社会福祉協議会 地域福祉課 ②講 演「誰も見逃さない福祉そしてひとりづくりとは」 講 師 鎮西学院大学現代社会学部社会福祉学科 教授 岩永 秀徳 氏</p>	3	再編合流の意向がある地区に対し、迅速に手続きが進むよう、支援方法を確立していただきたい。また、福推協等への支援実施後に取組の活性化につながったか否かを検証し、今後の支援の充実につなげていただきたい。	3
					目標値	年1回 (6カ所)	年1回 (6カ所)	年1回 (6カ所)	年1回 (6カ所)	年1回 (6カ所)		<p>【実施結果の分析と今後の取組み方針】</p> <p>【市】</p> <p>①地域運営研究会の議論を踏まえて、地区自治協議会と福祉推進協議会の連結の在り方を地域内で調整し、より地域運営が効果的にできる体制を作っていく。そのために必要な支援及び助言を行っていく。</p> <p>②整理した内容を社会福祉協議会・福祉推進協議会と共有し、体制を整備していく。</p> <p>【社協】</p> <p>○「佐世保市地域運営研究会」の検討結果をふまえた「再編合流」の考え方について、再度会長連絡会で説明。それぞれの地域の実情に合った方法で連携し、地域にとって福祉活動に取り組みやすく、継続できる形を目指すことについて理解が得られた。 →多くの地区は、これまでの体制で活動に取り組む方針。今後、各地区で再編合流への動きがあった際は、地域の実情に合った連携方法を検討、支援する。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症予防のために、自粛や中止となっていた地域活動が徐々に再開されるとともに、本会主催行事を感染対策を講じて計画通りに実施することができた。 →新型コロナウイルスの影響によって、これまでの地域福祉活動や地域のつながりが後退したと考えられる。それらの現状を把握したうえで、福推協等が主体となり地域福祉の推進に向けた活動ができるよう、地域交流行事や研修会などの企画や運営の支援を行うとともに、福推協等会長連絡会、研修会など継続的に実施していく。</p>			
					達成度	83%	0%	0%	100%		<p>目標・指標 事業達成度(達成度平均)</p> <p>100%</p>				

基本目標① 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～											令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価	
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5					
【2】課題を解決するための体制づくりと活動の促進	(2)多機関協働による地域の相談支援体制の構築	49	市 社協	<p>〔市・社協〕 地域における相談体制の強化を図るための「地域福祉・生活支援ネットワーク」の構築</p> <p>①民生委員・児童委員や地区自治協議会など、地域を基盤とした組織、地域包括支援センターや医療・福祉専門職等との協働を推進する。</p> <p>②「要保護児童対策地域協議会(佐世保市子ども安心ネットワーク協議会)」において、関係機関との連携を図り、子どもと子育て家庭を包括的にサポートする。</p> <p>③「佐世保市在宅医療・介護連携サポートセンター」において、地域の医療・介護の関係団体の連携を推進。在宅医療・介護サービスと福祉の連携強化を図り、誰もがニーズに合った支援を受けられる地域づくりを推進する。</p>	年次 計画	検討	推進	推進	推進	推進	<p>【具体的な取組みと実績】</p> <p>〔市・社協〕</p> <p>①「地域福祉・生活支援ネットワーク会議(第1層協議体)」を設置・開催</p> <p>■第1回 開催日:令和4年9月13日(月)</p> <p>内 容:1 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①第1層SCからの取組み報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度事業実績(マッチング件数、生活支援サポーター養成数及び有償ボランティア団体についてなど)</li> <li>・令和4年度実施状況報告(多様な世代の担い手確保、ウェブを用いた介護予防活動の推進についてなど)</li> </ul> </li> <li>②第2層SCから取組み報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿町地区の生活支援ボランティア団体「さわやか・しかまち」の活動状況など</li> </ul> </li> <li>③社会福祉協議会からの取組み報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉課題の解決に向けた取り組みに対する補助金</li> <li>・地域共生社会について(ふくし教育の取組み)</li> </ul> </li> </ul> <p>2 協議事項「継続可能な生活支援体制の維持について」</p> <p>出席者:13名</p> <p>■第2回 開催日:令和5年3月8日(水)</p> <p>内 容:1 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①第1層SCからの取組み報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における助け合いや生活支援等の活動実績</li> <li>・令和4年度地域支え合いフォーラムについて</li> <li>・緩和した基準によるサービスについて</li> </ul> </li> <li>②社会福祉協議会からの取組み報告                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの現状と課題について</li> </ul> </li> <li>③市保健福祉政策課からの説明                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・重層的支援体制整備事業について</li> </ul> </li> </ul> <p>出席者:11名</p> <p>○会議参加メンバー 民生委員・児童委員、地区福祉推進協議会、老人クラブ連合会、地区自治協議会、社会福祉士会、介護支援専門員、医療 ソーシャルワーカー、包括支援センター、市関係各課、第1層生活支援コーディネーター、社会福祉協議会</p> <p>②「要保護児童対策地域協議会(佐世保市子ども安心ネットワーク協議会)」を年6回(委員会2回、検討会4回)開催した。また、個別ケース会議を適宜(139回)開催し、対象児童の支援について検討した。</p> <p>③多職種連携研修会を企画・開催</p> <p>■第1回 開催日:令和4年10月2日(日)</p> <p>テーマ:「ACP(人生会議)で活用できる援助的コミュニケーション～後悔が少なくなる対話の進め方～」</p> <p>講師:エンドオブライフ・ケア協会理事 めぐみ在宅クリニック(横浜市)院長 小澤竹俊氏</p> <p>参加者(アンケート回答者数):120名</p> <p>■第2回 配信期間:令和5年1月10日(火)～3月10日(金)</p> <p>テーマ:「認知症になっても地域で尊厳を持ちながら生き活きと暮らしたい～多職種連携で支える豊かな毎日～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政説明(西海市)</li> <li>・講演/シンポジウム(座長:田中クリニック 田中公朗院長)</li> <li>・事例検討会</li> </ul> <p>参加者(アンケート回答者数):89名</p> <p>○研修会参加職種 医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・医療ソーシャルワーカー・リハビリ(PT・OT・ST)・社会福祉</p>	3	会議、研修会共に情報交換・共有に留まることなく、専門性を活かして課題の把握及び解決に至るよう努めていただきたい。	3	
					実績値	推進 (年3回)	推進 (年2回)	推進 (年2回)	推進 (年2回)						<p>【実施結果の分析と今後の取組み方針】</p> <p>〔市〕</p> <p>①多様な主体の参画による地域福祉・生活支援ネットワーク(第1層協議体)を開催し、地域課題を共有した。今後も、複合的な地域課題について、同ネットワーク協働による解決を目指す。</p> <p>③多職種で連携していくことの重要性・有効性について、多職種間で理解を深めることができ、有意義な研修会となった。今後も引き続き研修会を実施することによって、多職種のつながりを深め、連携を推進していく。</p> <p>〔社協〕</p> <p>○第一層生活支援コーディネーターと連携し、関係機関、関係団体との情報の共有及び情報交換の場となったことで、今後の各団体の取り組みに繋がっていく形となった。今後、情報交換・共有だけでなく、さらに積極的な地域課題の把握に努め、その解決につながるよう協議していく。</p> <p>○今後、佐世保市における重層的支援体制整備事業についても、制度の内容、促進体制など、情報交換をすることで、一定の共通した認識をもつことができ、今後の各機関との連携を更に強化していく上でのきっかけ、つながりを作る機会となった。</p>

基本目標① 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～											令和4年度 具体的な取り組み実績 実施結果の分析と今後の取り組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価	
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取り組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5					
【2】課題を解決するための体制づくりと活動の促進	(3)課題解決に向けて“つながる”仕組みづくり	50	市 社協	〔市〕 ①地域包括庁内推進会議の開催 ・福祉のみならず、多分野の庁内部署が つながる連携会議の開催。 〔社協〕 ①「地域カフェ」の設置推進 ・地域カフェの設置に向けた情報収集 及び検討。 ②座談会等の開催による話し合いの 場づくり推進 ・専門職等による地域課題を共有した 座談会の開催。	地域包括庁 内推進会議 の開催	目標値	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	【具体的な取り組みと実績】 〔市〕 重層的支援体制整備事業の実施にかかる庁内の意思決定の場として2回開催した。 第1回:令和4年10月(動画配信) 重層的支援体制整備事業の事業内容及び今後の検討体制について 第2回:令和4年12月26日 重層的支援体制整備事業への移行準備事業の実施について (出席者)副市長、総務部長、企画部長、財務部長、行財政改革推進局長、子ども未来部長、保健福祉部長 〔社協〕 ①実施形態の検討 地区コミュニティセンターのスペースを活用した「地域カフェ」の開設について、他都市の事例を参考に情報収集を行った。 ○地区自治協議会と連携した試行 昨年度、コミュニティセンター所長との情報交換をふまえ、地区自治協議会保健福祉部会と検討を始める計画だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり進展することができなかった。 また、自治協、福推協だけに限らず、地域のボランティアが主体となり実施する形の視野に入れ、実施地区については、手上げ方式にて実施したいという地区で検討することも視野に入れている。	2	地域カフェの実績が検討で終わっていることから、実施に向けた具体策を示していただきたい。 また、専門職座談会についてもコロナ禍を見据えた開催方法を確立していただきたい。	2
					実績値	3回	感染予防のため中止	感染予防のため中止	2回	【実施結果の分析と今後の取り組み方針】 〔市〕 ①重層的支援体制整備事業については、既存体制を活かした支援体制を構築することとして庁内で意思決定した。令和5年度から一部事業を実施し、令和7年度からの全面実施を目指す。今後も引き続き重層的支援体制整備事業の実施に向けた意思決定及び統括管理を行うとともに、当該事業以外の地域課題についても多分野の部局がつながり連携する場として継続して開催していく。 ②要保護児童対策地域協議会を活用し、関係機関や関係団体等と連携することで、保護を要する子どもやその保護者に対する適切な支援につながった。引き続き、協議会の開催を通じて、関係機関との連携を図り、子どもと子育て家庭を包括的にサポートしていく。 〔社協〕 ①今後、地区内の生活支援グループ及び福祉施設と連携した地域カフェの設置に向け、開設に向けた取り組みを推進する。 ②専門職等を対象とした座談会についてはオンラインでの開催も検討したが、各事業所がコロナ対応に追われていることもあり開催には至らなかったが、改めて座談会の趣旨や在り方を整理し、専門職のみならず地域住民も参加できるようなテーマでの開催を検討する。					
					達成度	150%	0%	0%	100%		年次計画 検討 実施 実施 実施 実施				
					実績値	検討	検討	検討	検討		目標・指標 事業達成度(達成度平均) 100%				
【3】情報発信力の強化	(1)福祉サービス利用者の選択に役立つ情報提供	51	市 社協	〔市・社協〕 ①福祉制度やボランティア活動、地域活動に関する情報をホームページに掲載 ②最新の情報を提供するための情報更新 ③閲覧者から問合せができる仕組みづくり	暮らしに役立つ福祉情報ガイドのアクセス件数	目標値	10,700件	10,800件	10,900件	11,000件	11,100件	【具体的な取り組みと実績】 〔社協〕 ①サロン等に参加した際に周知活動を行った。QRコード付きのチラシを社協受付窓口を設置、関係機関や情報掲載団体等へ配布し、PRを行った。また、主催した研修会・講演会において参加者へチラシを配布し、周知を図った。 ②「暮らしに役立つ福祉情報ガイド」の情報更新 ・フォーマルサービス(掲載実績:186件) 高齢者分野、障がい者(児)分野、子ども分野、経済的支援の相談窓口、介護保険制度、総合支援サービス、生活保護、貸付制度等の紹介について掲載(令和4年7月～情報更新調査、3月更新完了) ・インフォーマルサービス(掲載実績:126件) NPO、市民活動団体等の情報(団体の種類、団体名、活動目的、活動内容等)を掲載(令和4年3月～情報更新調査、5月更新完了) ③インターネット上のお問い合わせフォームに記入例を追加し、活用の促進を図った。 【実施結果の分析と今後の取り組み方針】 〔社協〕 ○社協受付窓口にてQRコード付きのチラシを設置、サロン訪問時や各関係機関との会議、主催した研修会・講演会においてチラシを配布するなどPR活動を行い、閲覧数の増加に努めた。 →引き続き、広報誌やホームページをはじめ、様々な機会を通じてより一層の閲覧者の増加を目指す。 ○「暮らしに役立つ福祉情報ガイド」トップページの見直しや検索方法について掲載することで、利用者が素早く知りたい情報へ到達できる仕組みづくりを行っていく。	3	今後も市民が見やすい情報の掲載及びアクセス件数の増加につながる取り組みを実施していただきたい。	3
					実績値	10,896件	12,989件	12,880件	13,106件	目標・指標 事業達成度(達成度平均) 119%					
					達成度	102%	120%	118%	119%						
					実績値	検討	検討	検討	検討						

基本目標① 地域の課題把握・解決のための仕組みづくり～様々な課題に対応した相談支援体制・連携の充実～											令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針		自己 評価	推進委員会 意見 評価	
施策	事業名	ページ	実施 主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等	R1	R2	R3	R4	R5					
	(2)コミュニティソーシャルワークに対応した情報提供	51	社協	<p>〔社協〕</p> <p>①ホームページや広報紙等による情報提供 ・社協だより、地域福祉かわら版「よもーで」など広報紙の発行を通じた情報提供</p> <p>②市民が必要とする情報ニーズの把握 ・「くらしに役立つ福祉情報ガイド」の問い合わせフォーム通じたニーズ把握など</p> <p>③新たな社会資源の情報収集 ・「くらしに役立つ福祉情報ガイド」に新たな社会資源情報を掲載するなど</p>	<p>【参考】</p> <p>ホームページや広報紙等による情報提供他 ※社協だよりの発行回数</p>	実績値	3回	3回	3回	3回	<p>【具体的な取組みと実績】</p> <p>〔社協〕</p> <p>①社協だよりでは、特集ページを設け、地域の支え合い活動や、社協が行っている事業を始め、制度や各種センターの取組みに関する記事の掲載に心がけ、地域住民の福祉意識の高揚に繋がるよう取り組みを行った。 ・地域福祉かわら版「よもーで」の発行については、社協だよりで発行することのできない時期のタイムリーな情報や、若い世代が興味を持ちそうな記事を掲載することで、より一層の地域福祉活動への理解と参加啓発につなげていくように心がけた。また、ふくし教育で各地区の小学校に訪問した際などに周知、配布を行った。</p> <p>・させぼ社協だよりの発行 年3回／100,000部発行 ・地域福祉かわら版「よもーで」 年3回／5,000部発行 ・ボランティア情報誌「くれよん」 年6回／4450部発行</p> <p>②広報担当者会議(社協だより・かわら版・くれよん担当者及びボランティアセンター職員)を開催し、掲載内容の充実を図った。 また、民児協定例会等、サロン訪問時等に情報の収集を行った。</p> <p>【実績結果の分析と今後の取組み方針】</p> <p>〔社協〕</p> <p>○市民が求める情報や関連事業、地域の支え合い活動等、生活に身近な情報誌となるよう、紙面づくりについても工夫していくとともに、情報収集としてモニター制の導入など検討する。</p>	3		3	<p>広報誌による情報発信が市民が求める内容になっているか、モニター制の導入によって検証していただきたい。</p>
基本目標 総合評価													C		